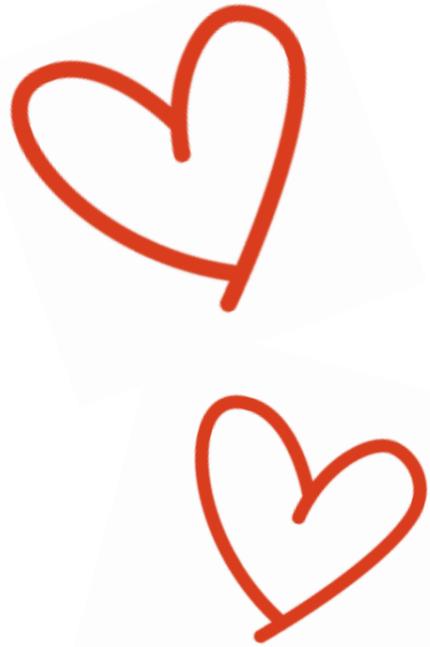


12月3日～9日は障がい者週間

みんなが暮らしやすいまちへ

この週間は、障がい者福祉についての関心や理解を深めるとともに、障がいのある人が社会活動へ積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。今回は、市内で活動している団体やサークルを紹介いたします。活動に興味がある人や入会を希望される人は、障がい福祉課へお気軽にお問い合わせください。

問 障がい福祉課 TEL (31)3711・FAX (31)3738・E 010837@city.omihachiman.lg.jp



安土手話サークル「絆」

安 土手話サークル絆は、昭和57年に設立し現在会員は35人です。昼の部は毎週木曜日午前10時から正午まで、安土町社会福祉協議会で、夜の部は毎週火曜日午後7時30分から9時まで、安土町コミュニティセンターで手話の学習会のほか、会員交流会や出前講座などもしています。どちらの部も見学自由で初心者も歓迎します。



聴覚障がい

聴覚障がいは、「聞こえ」の障がいです。全く聞こえない人・聞こえにくい人、音は聞こえていても「言葉」として聞きとれないなど、人によって聞こえの程度はさまざまで、聞こえない・聞こえにくいため日常生活に不自由を感じています。

手話サークル「かたつむり」

毎 週金曜日午後7時30分から9時まで、市民共生センターで活動しています。手話の単語や表現方法を学び、「伝えよう!」という気持ちを大切に頑張っています。時には難しいこともありませんが、和気あいあいと活動しています。見学大歓迎です。



手話サークル「やぐらんぼ」

毎 週火曜日午前10時から11時30分まで、ひまわり館で活動しています。会員各自伝えたいことを手話で表現して、試行錯誤しながら頑張っています。身体全体を使い、伝えるゲームもしています。ぜひ一度お試しください。お待ちしています。



要約筆記サークル「おひらり」

す いこうサークルでは、毎月第2土曜日の午前10時から正午まで、ひまわり館で活動しています。漢字の練習や生活の近況を報告することをOHCやノートテイク方法で書き、伝え方を学んでいます。よりよい要約筆記を目指し、勉強を続けていきたいと思っています。



要約筆記を知っていますか？

要約筆記とは聴覚障がい者に対する情報を伝える手段のひとつです。話の内容をその場で文字にして伝えますが、話のスピードによりすべてを文字にできないため、話を要約して筆記するので要約筆記といえます。

要約筆記には、少人数に対し手元の紙に書いて伝える「ノートテイク」、講演会など大人数に対し機器を使ってスクリーンに表示させる「OHC(オーバーヘッドカメラ)」「パソコン筆記」といった方法があります。



◀ノートテイクで伝えるすいごうメンバー

視覚障がい

視力、視野、色覚など見る機能の障がいです。見えない・見えにくいことで、移動や読み書きなどの日常生活に不自由を感じています。

「あいの会」

あいの会では、毎月第1金曜日の午前10時から正午まで、市民共生センターで勉強会を行っています。市や各種団体から依頼された資料、会で選定した蔵書などをパソコンを利用して点訳しています。
点訳経験の有無に関わらず、点字に興味のある人をお待ちしています。点訳の依頼もご遠慮なくご連絡ください。



「ひむれ点訳グループ」

わたしたち、「ひむれ点訳グループ」は、滋賀県視覚障害者センターで点訳の講習を受講後、昭和63年に市内在住者で結成しました。会員は現在7人で、月1回の定例会と学習会を開催し、各自家庭で点訳作業を行っています。おもに月刊誌「ひむれ通信」の発行やセンターから依頼された蔵書本の点訳と校正を行っています。



知的障がい

発達期において、知的能力が年齢相応に発達していない脳の機能障がいです。複雑な会話や抽象的な概念を理解すること、読み書きや計算、見通しをもって考えることが苦手などの特徴があり、日常生活に困難を伴います。

障がい児支援団体

「安土すまいるの会」

障がいのある子どもたちや保護者への理解とつながりの輪を広げることがめざしています。「コロナ禍でもつながりを絶やさない」「子どもたちの笑顔が見たい」と、スタッフでアイデアを出しあい、余暇活動や保護者交流会、広報活動、ネットワークづくりに取り組んでいます。今年度は夏休み期間中に、バスでお出かけや竹で水鉄砲づくり、粘土で作品づくりなど、5回の余暇活動を実施しました。地域のボランティアや民生委員・児童委員の協力があり、活動できています。参加しているみんなが笑顔になれる活動を、これからもずっと続けていきます。



「花(はな)bee(ブー)」

発達障がいと知的障がいのある人の発達障がいと知的障がいのある人の疑似体験型啓発キャラバン隊

発達障がいと知的障がいの特性について、疑似体験や講座を通して理解を深めるとともに、障がいの有無に関わらず誰もが地域で暮らせる共生社会の実現を目指しています。また、この活動を市民や行政、支援関係者、保護者など、いろいろな立場の人とともに取り組むことで、地域の連携を図り課題解決につなげることを目的に活動しています。



発達障がい

脳機能の発達に関係する生まれつきの障がいです。また、「注意力がない」「じっとしてられない」など、外見からはわかりにくく、「自分勝手な人」と誤解されてしまうことがあり、理解されにくい障がいです。

